

6-7

演題	障がい者雇用と仕事の切り出し
副題	～彼らがいないと困るんです～

洗濯係
アシスタント

法人名	社会福祉法人 照陽会
施設名	特別養護老人ホームみんなと暮らす町

発表者名 (職種)	戸中 功 その他	都道府県	神奈川県
共同発表者	広嶋 稔之	住所	川崎市幸区東古市場 116-12
共同発表者		TEL	044-520-1901
共同発表者		FAX	044-520-1906
共同発表者		メールアドレス	minamachi-jim@dmail.plala.or.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特養ユニット型個室 120 床、ショートステイ 20 床、デイサービス定員 25 名、地域包括支援センターを運営。「自由・勝手・気ままな暮らし」「遊びの追求」を法人の理念として掲げ、平成 20 年より運営している。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

障がい者雇用率ゼロから雇用を始め、雇用率達成と安定就労を継続している。
当施設で障がい者の長期就労に繋がったポイントを改めて洗い出すことで、今後更なる安定就労に発展すると思った。

取り組んだ課題

障がい者雇用開始時、職員間で様々な意見があった。
障がい者を雇用することに関し、職場全体で理解が乏しかった。
どんな仕事を任せて良いか分からない。
専門性の高い業務を任せられない。
誰が仕事を教えるのか。(付きっきりで見えない)

具体的な取り組み

障がい者雇用に関し施設長から全体に周知。
介護職員にアンケートを行い、障がい者職員の仕事を切り出した。
直接介護業務以外にも仕事はたくさんあり、特にハード面から移動するのに時間のかかる洗濯業務をやっていたこととした。
洗濯業務を中心に洗濯場で他にもできる細かい仕事を「業務一覧表」にすることで障がい者職員に自律的に取り組んでもらえるようにした。
障がい者職員に専門で仕事を教える担当職員を決め、指示系統を一本化。しばらくの間は全ての窓口を行った。
勤務時間の配慮や業務環境の整備を実施した。
持病の発作があった時やその他緊急時の連絡先を整備した。

活動の成果と評価

洗濯業務を一手にこなすことで自然と障がい者雇用に対する理解も更に広まった。
現在は切り出した仕事を中心に、他の細かい仕事も増えた。それらを自律的に行うことができ、本人たちのモチベーション維持にも繋がっている。

今後の課題

精神障がい者の職員には調子の波がある場合があり、長期間の欠勤、結果として退職することがあった。
施設では精神障がい者や未採用である身体障がい者に関する専門知識のある職員が必ずしも在籍しているわけではないので、フォローするために専門機関と連携する等の必要性を感じた。